

# 無責任 二十九号

箱世界

清水らくは

生まれた時から箱にいます  
生まれてからずっと生きてます  
誰かの声が聞こえてきます  
「生きてると同時に死んでます」

箱の外はどんな世界  
僕のことを知っているのに  
僕のことを知らない世界  
美しいだろうか

箱はきつと箱のまま  
僕の全てを許し続ける  
箱は夢を運んできて  
あらゆる未来を許す

生まれた時から箱にいます  
生まれた時から生きています  
信じた思いを示すために  
死の臭いをそろそろ認めよう

真夜中の駅舎に男  
黒檀の箱には塩のぬれる夜あり

浮島

部屋。

元親ミッド

ありとあらゆる危険が、遠い世界のお話だったもんだから。

それで、随分と長あいこと

この何もない部屋で、僕はじっとして過ごしてきたんだ。

ところがだ。

或る日、部屋の外が何やら騒がしいじゃないか。

かわいらしい女性の笑い声が聞こえてくるし

おいしそうないい匂いがしてくる。

どこかでバーベキューでもやってんのかな？

いやいや、だからって僕は動かない。

動かないったら、動かない。

この可もなく不可もない静かな部屋にいた方が

安全だって決まっているじゃないか。

そうこう考えていると外が急に静かになった。

聞き耳を立てる僕。

もう何の匂いもしない。

いつからか過ごしてきた暗闇の中も

夜目が利くようになっていて

その部屋の様子が今はもう

手に取るようにわかっていた。

といっても、この部屋には一切の家具というものが無い。

床と天井にわずかな段差がある他は

四方の壁がただあるばかりで

その壁の向こうに何があるのかもわからなかったけど

それはそれがかまわなかった。

なにしろここでじっとさえしていればね

誰にも会わずに済むもんだから

誰とも喧嘩せずにすんだし

煩わしい恋愛の縛れもないし

交通事故にも遭う事はないし

すると思い出したようにお腹が鳴って

いてもたってもいられなくなつて

部屋の壁をあちこち押ししてみるけどドアがない。

今更ながらドアが無いって事に気がついて

ぶわっと噴き出す汗、出られないという事の恐怖心で

僕は思いつきり壁にとび蹴りをかましたのだ！！

ポフンと壁が揺れて、部屋全体が揺れると

部屋は大きく回転して、壁だった床に叩きつけられる。

天井だった壁に光の線が走って

その眩さに目が眩んで硬直してしまつて

暫くして再び視界がひらけた時に、

その世界の色彩に、ただただ驚いて

言葉も失つて、夢遊病者のようにふらふらと出て行って

ゆっくり振り返ってみると

そこには一個の段ボール箱が一つ転がっていた。

そうか、僕がいた部屋って

あの小さな段ボール箱だったんだ。

無責任 二十九号

責任者 清水らくは

副責任者 浮島

ゲスト 元親ミッド

発行 無責任 zone

発行日 2014年7月1日